

Committed to the development of the profession of sign language interpreting worldwide

## 目次:

|                            |      |
|----------------------------|------|
| WASLI ニュース                 | 1    |
| 地域別最新情報                    | 2    |
| WASLI 会議最新情報               |      |
| ヨーロッパ盲ろう者集会                | 3    |
| オープンプロセス                   | 4, 5 |
| 日本の通訳事情                    | 6, 7 |
| 西アフリカの手話標準化に<br>関するワークショップ | 8    |



最新情報はこちらから

[Facebook](#), [Twitter](#)

または WASLI の HP へ:

[www.wasli.org](http://www.wasli.org)

## WASLI ニュース

WASLI 会員各位

ニュースレターをお届けします。このニュースレターを編集していただいたニュージランドのアンジェラ・マレイと世界中にいる彼女のチームに対して御礼申し上げます。地域別最新情報にてご覧になれるように 2013 年も理事は充実した 1 年を過ごしました。新しく南洋州・オセアニア共同地域代表となるアンナ・ポストをお迎えすることとなっています。これは素晴らしい支援の形となり、アンナの前向きな取り組みに感謝しています。また、シーナ・ウォルターズの今までの多大なご協力に感謝しています。

新しくジョルディ・フェッリを翻訳コーディネーターとして迎えます。ラファエル・トレビーノのこれまで 7 年間の働きに大いなる感謝を申し上げます。

この数カ月間の活動成果をご紹介します。

新しいホームページが完成しています。この仕事を進めてくれたスーザン・エマーソンに感謝します。皆さまの感想をお待ちしています。是非ご覧ください。

[www.wasli.org](http://www.wasli.org)

WASLI2015 年共同議長であるセルマン・ホティとミシェル・アシュリーは次回 WASLI 会議の委員長を決定するために何ヶ国かと交渉し続けてきました。もし皆さまの通訳者組織やコミュニティが会議資金援助、そしてまたは会議参加支援にご興味をお持ちの場合には WASLI 会計担当のスーザン・エマーソンに詳細をお問い合わせください。

WFD との共同作業は 3 つのプロジェクトチームにおいて進行中であり、自然災害時のろう者とのコミュニケーション、国連行事での国際手話通訳者雇用基準策定、国連業務のための国際手話通訳者認定に関する事案について、ボランティア委員会によってなされている進展に満足しています。

この数カ月間に私は 2 つの大きな行事に参加しました。1 つ目は第 2 回ラテンアメリカ通訳者会議です。この会議はブラジルのリオデジャネイロで開催され、300 人以上が参加しました。この会議への参加は興味深く、この地域での素晴らしい活動の様子を知ることができました。WASLI 副会長のホセ・ブレビアおよびラテンアメリカ代表理事のホセ・エドニルソン・ジュニアに対しこの会議への多大なサポートに感謝いたします。また、WASLI 理事会もブラジルで開催し、5 名の参加者がありました。

私はちょうどオーストラリアのシドニーで開催された第 2 回 WFD 国際会議から帰国したところです。67 ヶ国から 640 人以上の参加者がありました。WFD とのコラボレーションを表明し、多くの行事に参加できた素晴らしい機会となりました。コリン・アレンと私は一般会員に対し WASLI と WFD のコラボについてのプレゼンテーションを行いました。会議には WASLI への理解を深めるため、また通訳に関する会議に数ヶ国の代表者とともに参加するために数名の理事が出席し、WASLI を効果的に周知することができたと思います。

この会議への出席を通して、WFD-WASLIの共同合意書、他国のものも含めて実質的な例を求める声を多くいただきました。私たちはまた、WASLI理事会もこの間に開催し、5人の参加とラテンアメリカ代表理事のスカイプ参加がありました。WFDの手話専門家であるロバート・アダム博士も参加しました。手話保存とそれぞれの国の手話支援に対する通訳者の役割を討議する場では大いに助けていただきました。

今月11月には世界盲ろう者大会がフィリピンで開催されました。オーストラリア協会からのろう出席者であるカーラ・アンダーソンに、WASLIを代表し今回の会議で新しく取り交わしたWASLI-WFBD（世界盲ろう者協会）間の了解覚書にサインしてほしいと依頼しました。WASLIは将来的にアラブ諸国のカタールやマケドニアろう者協会の65周年記念大会で代表者が説明する予定です。

WASLIが現在直面している大きな課題のひとつは、通訳者とろう者協会とのコラボレーションです。WASLIもWFDも共に数ヶ国の通訳者とろう者から、協会の設立に当たりお互いの協力体制や敬意の念が欠けている等の心配事についての相談を受けています。我々2つの組織からの明確なメッセージは、相互の敬意と信頼を育てるために共に親しく活動し、協力的な計画を創り出すように働きかけることです。通訳者協会の設立は最終的な目的ですが、ろう者コミュニティとの効果的関係の発展、維持の努力なくしては不可能です。

皆さまのWASLIへの継続的な支援と専門職へのご理解に感謝いたします。

敬具

デブラ・ラッセル  
WASLI会長

## 地域別最新情報

### 南洋州とオセアニア地域

シーナ・ウォルターズとアンナ・ポストは南洋州とオセアニア地域代表理事の役割を2013年7月1日より分担することになりました。シーナは引き続きWASLI翻訳チーム、WFDオセアニアとの研究や戦略計画についての連絡を担当します。アンナはWASLIオセアニア地域の会議のコーディネーターやASLIA、SLIANZとの連絡、メール対応を担当します。こうすることにより二人が担当地域の通訳者に対し余裕を持った対応ができるようになります。

10月に、WFD会議に出席したWASLI南洋州・オセアニア地域の代表者がシドニーで集まりました。オーストラリア、ニュージーランド、フィジーの各代表とWASLI会長デブ・ラッセルがカナダから来ていました。みんなでソロモン諸島、フィジーの通訳者とろう教師の将来的な養成機会について情報交換しました。また将来に向かって、新しくより分かりやすい方策を決定しました。



### 北アメリカ

現在メキシコでは、2014年7月にメキシコシティで開催予定の第1回北アメリカ手話通訳者大会の準備中です。ここでの全国専門手話通訳者連盟の設立が期待されています。

### アジア

毎年WFDAP会議に合わせて開催していた、アジア手話通訳者会議は、今年は開きません。シドニーでのWFD会議で、来年のAP会議を2014年8月24～28日マカオで開くことが決まりました。アジア手話通訳者会議もこの日程に合わせて開催するよう、準備を進めます。

## WASLI 2015 年大会 トルコ

世界手話通訳者協会から WASLI2015 年大会実行委員会が決定したことをお知らせいたします。大会実行委員長（ミッシェル・アシュリーとセルマン・ホティ）は、今年年頭の立候補の呼びかけに対して世界中からたくさんの申し出を受けました。委員会の構成をみると WASLI が世界と共に、世界のために活動していることがうかがえます。

委員会の構成は以下の通りです。

リズ・メンドーサ、トレーシー・ノリス、イゴール・ボンダレンコ、マイケル・ピデバスキ、グレッグ・ハウ、レイチェル・マッキー、デサンカ・ジジック、カッシーア・ソフィアート、イザベル・ハイリック、スザンヌ・エーリッヒ、ジャック・キャロン、ゼイン・ヘマ、ブランドン・アーサー、オーカン・キューバス、シャウナ・ヘーレ、デリス・マギル、スーザン・エマーソン、デブラ・ラッセル

まだ、委員を補充できます。このすばらしい国際大会にかかわりたいと思われる方は、ご連絡ください。

[wasli.turkeychair@gmail.com](mailto:wasli.turkeychair@gmail.com)

また、WASLI2015 年大会の新たな4つのスポンサーをご紹介します：

オーストラリア州通訳者協会（ASLIA）エコー通訳社、ジョージ・ブラウン・カレッジの学生有志、そしてカナダ視覚通訳者協会（AVLIC）

スポンサーに関心がおありの方は、[treasurer.wasli@gmail.com](mailto:treasurer.wasli@gmail.com)まで連絡をお願いします。そして必ずフェイスブックの“WASLI Conference 2015”に参加してください。

ヨーロッパ盲ろう者連合がドイツで集会

ヨーロッパ盲ろう者連合（EDbU）から、ドイツ・ベルリンで盲ろう者が世界に向けて初めてデモンストレーションを成功させたことをお知らせします。

10月4日、ベルリンの中心地で、ドイツの盲ろう者の権利を求める行進に200人以上の盲ろう者が参加しました。行進の最初から最後まで、一般人やメディアの注目は、孤独の囚人を表す鉄のボールを持った参加者に集まりました。

行進や、ドイツ国会前での演説は強烈なインパクトを与えました。ドイツ政府と盲ろう者の協定につながることを期待します。ヨーロッパ盲ろう者連合はこのデモンストレーションを、EDbU 会長サンヤ・タルツアイからの言葉でもって支援しました。

ベルリンでの盲ろう者の力強い声明は、ドイツに在住する2500人から6000人の明るい未来への道しるべです。主催者や参加者は、ドイツの盲ろう者の認知を高める第一歩を踏み出したことを誇りに思うべきです。





## オープンプロセス—招待を拡大する

パトリック・ガラツォ, CI/CT, QMHI & アリス・カーミッシュ, NAD IV

長年この分野で仕事をしているアメリカ手話通訳者は業界で静かな進展が起きていることに気づきました。専門職意識が、長年の懸案だった新しいレベルにつながる期待すべき小さな改革です。音声言語の通訳現場でも同様、最高の通訳は人の母語の中で生まれます。病院、収容所、学校など、通訳場面で、スペイン語通訳者やロシア語通訳者は訛りのある英語を話します。アメリカでアメリカ手話を使うろう者のための通訳者のほとんどが母語習得後に手話を学んだ人々です。ろう通訳者 (DI) あるいは資格を持ったろう通訳者 (CDI) を利用することがしだいに増えてきて、ろう利用者は自然な母語使用者の通訳を受けることができるようになっていきます。

オレゴン州ユージーンにある USA モビリティインターナショナル (MIUSA) は世界中からの参加者、講演者を集めて障害、人権、擁護に関する集中的な研修を行っています。この研修はユージーンや海外で年間何度も開催されています。そのプログラムにはろう者もよく参加します。

2012 年夏、MIUSA は 26 人の女性リーダーの国際交流を行いました。そのうち 6 人がろう者及び難聴者でした。参加者のユニークな言語ニーズに合わせて、通訳チームは、ASL と CDI チーム (2 組)、2 人のトライリンガル通訳者 (スペイン語、アメリカ手話、英語)、スペイン語通訳者、アラビア語通訳者で構成されました。スペイン語通訳とアラビア語通訳はネイティブスピーカーでした。

ASL チームにはネイティブの ASL ユーザーが 1 人と多数の言語の学習者がいました。このような多様な通訳者グループと研修を行うことで、皆、果敢にそれぞれの通訳実践やプロセスを再評価できました。言語が多様であることにより、アメリカで通常使用されている標準モデルとは根本的に違うアプローチが求められることとなりました。我々は通訳のオープンプロセスモデルを採用しました。オープンプロセス通訳ではろう利用者も含む全員が積極的にコミュニケーション過程に参加します。

このイベントでは、通訳経路が多層化しました。

ひとりの CDI が ASL 健聴通訳者と通訳をするとき、別の CDI が ろう参加者の理解度をチェックしながら、メッセージの等価性をモニタリングし、必要なときはろう利用者に説明します。別の ASL 通訳者は通訳している ASL 通訳者をサポートし、CDI のメッセージの正確性をモニタリングし必要なときは質問をします。



オープンプロセス トライリンガル (3言語) 通訳者



Seng USAID と会う

チーム間のコミュニケーションが不可欠でした。日々の記録、柔軟性、常に再構成する力が必須となりました。皆が、何が効果的で、何がそうでないのかを責任を持って見極めることで貢献します。こうして通訳者は専門職として成長できる、まれにみる機会に恵まれることとなりました。

このオープンプロセスは、実践、議論すべてに参加したヨルダン、チリ、ミャンマー、ケニアのろう参加者の中で成功をおさめました。

通訳のオープンプロセスモデルを利用することでろう者は多くも少なくも彼らなりの理解度の確認、難解な新しい概念の広がりや明確化を求めることができるようになりました。

1. ろう通訳者については詳細はこちらを: [www.diinstitute.org](http://www.diinstitute.org).
2. USA モビリティ交流プログラムについてはこちらを: [www.miusa.org](http://www.miusa.org).
3. トライリンガル通訳についての情報はこちら: [www.manoamano-unidos.org](http://www.manoamano-unidos.org).
4. 元の全「オープンプロセス」の文書はこのリンクを: [Open Process](#) (英文)
5. オープンプロセスの手話通訳はこちらを: [Click here](#)

「オープンプロセス」という言葉は USA の Molly Wilson から作者が引用しました。

この記事のために貢献してくださった以下の方々に感謝の意を表します。

コリーン・セア, MA, MS, CDI, CLI-P

スティーブン・G・スタップス, CDI

ケリー・バームズ, BA

エドウィン・キャンセル, 有資格 3 言語通訳者

メラニー・テレオン・ベンナム, MS, CI/CT, SCI:L, NAD IV, NIC

ニコラ・ホレル, MA, CDI

サラ・ハイファー, CDI



パキスタンチーム



オープンプロセス パキスタンチーム



オープンプロセス—多数のレベル



## 日本の手話通訳事情と全通研 (NRASLI)

梅本悦子 WASLI アジア地域代表・全通研国際部長

日本では1968年にろう者への情報保障と手話通訳の必要性の問題について全国的な議論が始まり、第一回全国手話通訳者会議が福島県での第17回全国ろうあ者大会と併設して開かれました。その後1974年に全国手話通訳問題研究会が結成されました。手話や手話通訳に関心のある人なら誰でも会員になれます。

現在、全都道府県47に支部があり、会員数はおよそ11000人です。

### 冬集会の歴史

議論する問題と参加者数の増加により、前年度の議論を発展させることが困難になってきたため、1985年から全通研は年に2回、夏集会と冬集会の開催を決めました。

冬集会は討論形式で行われ、講義形式の夏集会とは独立した形での開催です。

冬集会では前年度の議論を元に行われるため、参加者全員が前回の討議について共通の背景情報を持つことが大切です。各地域がその活動報告を提出するという決まりがあります。冬集会の議長は全通研の理事が担います。

共同研究者は活動の協力者である日本ろうあ連盟の会員が務めます。

参加者はそれぞれの分科会での知識を共有し、その体験から新しい活動を始めていけます。次年度の集会では彼らが学んだ事や実行にいたった新しい活動について討論をします。

### 2013年度冬集会

第29回冬集会（全国手話通訳問題研究討論集会）が、2013年2月23,24日の2日間、名古屋市の中京大学で開かれました。参加者は全国47都道府県からろう者聴者含め987人で、1日100人の要員のみなさんが集会を支えてくれました。

13の分科会に分かれて、研究発表を聞き、活発な討論を繰り広げました。

その中からいくつか紹介します。

#### 「通訳業務とその役割」

ここではコーディネート業務と新人通訳者への支援のあり方についてのレポートがあり、OJT研修や現場報告に加えて、通訳者間の相互スーパービジョンが不可欠であるという報告がありました。また、24時間緊急対応について話し合い、公的機関での手話通訳者雇用の必要性で意見の一致をみました。全日本ろうあ連盟は手話通訳派遣業務の要項や新ガイドラインの制定を行っており、これに従うことが地域格差解消につながります。だがその一方我々は常に各地域の実情を考慮することを忘れてはならないのです。



## 「手話」

この分科会では2つの報告がありました。ひとつは地域の手話表現との関わりからひとりのろう教師の足跡を訪ねたDVD発表でした。

もうひとつは、地域の手話を収集しその冊子を発行するまでの経緯を報告したものでした。いくつかの団体から地域独自の手話本やDVD作成のプロセスの発表がありました。

また、全日本ろうあ連盟発行の「新しい手話2013」の本から新しい手話表現を学びました



## 「手話サークル」

日本には地域の手話者とともに交流しながら手話を学ぶグループがたくさんあり、それらを手話サークルと呼んでいます。

サークルでは手話を学ぶ機会が提供され、ろう者の家族、ろう学校の教師、また日本手話を学びたいと思っている人なら誰でも参加できます。この分科会では4つの報告がありました。そのなかに、手話サークルの歴史について発表がありました。手話サークルについて学ぶことは、手話技術向上を願いながらどうすればよいか分からない人々にとって、意義深いことでした。手話を学ぶことがろう者の暮らしを理解することであることに気づくことができました。またサークル運営方法についての情報も共有しました。

ろう者に特化した防災訓練についての報告もありました。消防署の協力を得て、防災訓練を行ったとき、コミュニケーションの課題が明らかになったとのことでした。我々は緊急時のサークル会員の役割について討論しました。

会場では全日ろう連、全通研が発行した書籍、DVDの販売コーナーがあり、多くの会員が最新情報を得ていました。

2日間で様々なテーマの実践・課題報告が全部で32本ありました。十分に情報を共有し相互学習のできた2日間でした。



## 西アフリカでの手話通訳の標準化のための国際ワークショップ

### ナイジェリア手話通訳者協会(ASLIN)

サミュエル・オルワダーレ ASLIN 事務局長

2013年6月24日から28日まで、ナイジェリア手話通訳者協会（ASLIN）は西アフリカで手話通訳の標準化のワークショップを開催しました。朝の開会セレモニーでスタートし、たくさんの人が参加しました。

開会セレモニーで、様々な人や組織が歓迎と親善をこめたスピーチを行いました。これらのスピーチがASLINの成功と発展をもたらし、今後も手助けとなります。スピーチを行ったのは、ラシラッド・オクドワ ASLINの理事代表、女性省の名誉大臣、駐ナイジェリアのスウェーデン大使、全国ろう者協会(NNAD)会長アルハンブラ・スライマン・ダグボ、アダマワ州政府障害者問題特別アドバイザー、VSOの代表、少年・スポーツ・社会発展省大臣（ろう者スポーツ協会）

もちろん、プレゼンテーションは、ナイジェリアや西アフリカの通訳者に共通の目的（つまり、基本レベルの確立）にふさわしいものでした。ワークショップでは、国内、海外での他の専門職の実践が話し合われました。このプログラムは協会の会員が、国内外でのろう者やその他対象者への通訳の際に必要なトレーニング、求められる洞察力をもたらしてくれるでしょう。

また、別の注目点は、西アフリカでろう者とともに通訳の仕事に専門職として標準化していくべきだとされたことです。諍いや分裂のない合意がなされるべきで、よりよい未来を進めていくため、真の関係作りをしていかなければなりません。

この会合では、その他に、専門職としての行動規範を定めることに重点が置かれました。これは会員から一様に承諾を得ています。この行動規範は、従う人たちすべてを含むもの、かつ、世界にある類似の行動規範と同等のものでなければいけません。

協会は今後さらに拡大し、ワークショップや大会を行う立派な機関になりたいと思っています。ガイドラインや原則を設けることで、通訳は、この分野での就職を求める人にとって素晴らしい職業であることを示したいのです。







左：フィリピンにて WASLI と世界盲ろう者連盟との協議書に署名。WASLI からの代表はオーストラリアのろう者カーラ・アンダーソン(親指を立てている人)

右：ネパールの代表者と一緒に  
デブ・ラッセル。  
オーストラリア・シドニーでの  
WFD 大会にて



## 重要事項

この会報の記事内容がすべて世界手話通訳者協会の考えを表わしているとは限りません。WASLI 会報は、編者が WASLI 理事及び外部からの寄稿者と共に作成しています。WASLI は情報内容の信頼性を保つよう努めています。会報に掲載されているすべての情報を編集する権限は WASLI にあります。掲載内容の正確性や個人意見に関しては、WASLI は一切責任を負いません。出典を明確にいただければ、掲載内容の転載も認めます。WASLI の公式写真の使用許可申請及びメールアドレスの変更申請は [secretary@wasli.org](mailto:secretary@wasli.org) まで。

## WASLI 理事会

役員:デブ・ラッセル (会長);ホセ・ルイス・プリエバ・パディラ (副会長);アウオイ・パトリック・マイケル (事務局);スーザン・エマーソン (会計)

地域代表: シーナ・ウォルターズ、アンナ・ポスト (南洋州・オセアニア); サミュエル・ベグミサ (アフリカ); モニカ・ブンジャビ、梅本悦子 (アジア); セルマン・ホティ (バルカン); ホセ・エドニルソン Jr. (ラテンアメリカ); ナイジェル・ハワード (北アメリカ); イゴール・ボンダレンコ (ロシア・コーカサス・中央アジア); (ヨーロッパ) 調整中

## WASLI ボランティア

WASLI ホームページ管理者:パトリック・ガラツソ、協力パトリック・ウィッチ

WASLI 会員管理:ロビン・テムコ

WASLI 翻訳コーディネーター: ジョルディ・フェッリ(他ボランティア)

会報編集:アンジェラ・マレイ

会報校正:パトリック・ガラツソ、アラン・ウェン